

「ほぼ日」のサイトで連載してたときから見てました。ほぼタシヤレたよね(笑)。答え、なかなか当たらなかったなあ。(名久井)  
僕も全然わからなかった。答えを知ると、人と言いたくなるね。(福永)

## 『今日はなぞその日』



フジモトさんの描くペンギンは本当に、とても可愛い。主役っぽさはないんだけど、「ないけど主役」なのがいいです。素敵。(名久井)  
『PEANUTS』みたいな、ずっと愛される作品だと思います。Eテレでアニメ化してほしい！(福永)

## 『スッコトくん』



文庫版が出たとき、「描き直したでしょ、ここ、ここ、ここ、ここ」ってフジモトさんに指摘したら、全部合ってたの(笑)。絵の感じが「今のフジモトさんになっちゃったから」「よくなったね」と褒めると、フジモトさんは「あたりまえだろ。俺はいつも成長している」って言ってました(笑)。<だけけた場面では一人称は「俺」でしたわね。(名久井)>

## 『こゝまのガドガド』



### 刊行記念

# 『フジモトマサル傑作集』 収録作全作解説

【談話】

名久井直子 (『フジモトマサル傑作集』監修・装幀)  
福永 信 (『フジモトマサル傑作集』企画・選・構成)&談話構成



読まなくていいだ(笑)。この『終電車』とくに行っちゃった』にはそういう彼の(格好つけてるだけじゃなく)影みたくいところも出ている。エッセイを読むとその感じがわかる。漫画はカクマや集中線を使っていたり、『漫画』の感じを出したいという気持ちがある(名久井)。

## 『終電車』とくに行っちゃった』



今回初めてちゃんと全部読んだけど、設定を一生懸命やっているなって思いました。まだ初期の感じがあって、漫画にしようと思ってたよね。(名久井)  
漫画家のフジモトさんが本当に好きだ。ああ、コマ割りの端正なことよ！全部収録できて本当によかったです。(福永)

## 『おおかみが来るぞ』

『いきものすべて』(青幻舎)も復刊しました！



祝復刊！

ネコもスカンクもワサギもバクも、みんな愛しい友だち。フジモト村の住人に私もなりたい。——本上まなみ

4コマの窓から見える

いきものたちの、誰も知らない「平凡な」日常。

傑作4コママンガ(&短編)集

宮本大人(漫画史研究)による解説を新たに収録！

価格：1600円＋税

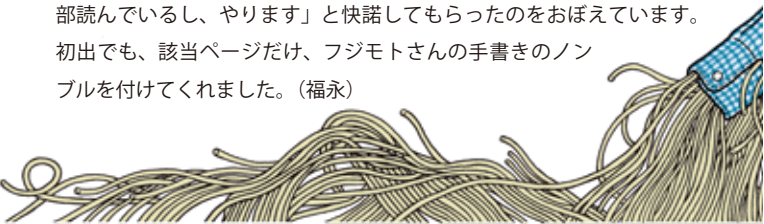
『フジモトマサル傑作集』

著者：フジモトマサル  
装幀・監修：名久井直子  
企画・選・構成：福永信  
価格：2,700円＋税  
発行：青幻舎

『二週間の休暇(新装版)』(講談社)  
『フジモトマサルの仕事』(平凡社)  
絶賛発売中！

## 『スパゲティ禍』(文・藤野可織)

初出は「美術手帖」でやっていた〈小説〉という企画で、フジモトさんが藤野可織さんとタッグを組んでビジュアルと短編のページを作るというものでした。フジモトさん、大変な時期だったはずで、しかも、締切の余裕も全然なかったにもかかわらず、「藤野さんの作品は大好きで全部読んでるし、やります」と快諾してもらったのをおぼえています。初出でも、該当ページだけ、フジモトさんの手書きのノンブルを付けてくれました。(福永)



## 『夢みごち』

この本みたいに、短編が繋がっている方式が、彼には合っていたんじゃないかな。結果として長い物語になっていて、読者も長くその世界に滞在してられる。実は私は(「傑作集」には収録されてないけれど)、第2話の「夢警察」のエピソードが大好きです。『夢みごち』の終わり方について、「これ、ハッピーエンドだと思う? バッドエンドだと思う?」とフジモトさんから聞かれて、「ハッピーエンドだよ!」と答えたのをおぼえています。皆さんはどう思いますか?(名久井)



## 『アナグマ博士の睡眠研究所』

未発表音源が出たみたいなの、懐かしくも、新しい感じですね。(名久井)

フジモトさんはずっと最初からフジモトさんだった。手探りしながら自分の世界を作っているところ、素晴らしいと思う。この作品があるから『夢みごち』もある。全部収録できて本当によかった!(福永)



## 『回想の再読』

初出を見ればわかるけど、本当に、本当に最後に書いていた文章です。自分でも「最後」と思って書いていたと思う。(名久井)

## 『二週間の休暇』

フジモトさんは装幀と真剣に向き合っていて、この本でも、こだわってました。デザインの実現が難航した時も、「著者は装幀者の味方です」とずっと励ましてくれた。新装版を出した2016年は、いなくなりたてで、現実感がなくて、読み返すことができないまま、作業しました。先日、新装版がひさしぶりの重版になったのですが、当時、2人でやりたくて実現しなかった紙で、カバーを刷ることができたんです。不思議ですよ。(名久井)



## 『ダンスがすんだ 猫の恋が終わるとき』

フジモトさんからのメールや、一緒に飲み会でも、回文、いろいろ作ったなあ。他にもアナグラムをやったりね。楽しかった。福永さんなら、「ナガク、フジン(長く、腐心)」かな。(名久井)  
まあ、「長く、不振」だろうな。(福永)



## 『かわうそ天然気分』

ずっとレンザブローで連載、読んでました。これからも楽しみだった。続きが読みたいです。フジモトさんは「俺の死後、画集は出すな」と言ったことがありました。「漫画は?」と聞くと、「漫画ならいいよ」って言った。私は、自分のことで自信がないとかよく言ってしまうんだけど、フジモトさんは励ましてくれながら、自分も「イラストの技量は永遠に自信が持てない気がする」とメールに書いたこともありました。「でも、漫画は自分にしかできない事がある気がする」と。(名久井)



## 『ウール 100%』

## 『ウール 100% ドリーの日記』

## 『ウール 101%』

原稿がデジタルになって、後期に繋がる画風ができた頃の作品だと思います。『長めのいい部屋』はどちらかというと絵本側かなと思うけど、この「ウール」あたりから、漫画になったと思う。「ドリーの日記」は連載をしていた YEBISU STYLE をガーデンプレイスにもらいに行ってきた。(名久井)



## 『長めのいい部屋』

会社の帰り、本屋さんに立ち寄ったとき、この本を見つけて、買いました。フジモトさんのことは、この本で知りました。もう22年も前のことですね。フジモトさんのホームページは、当時としてはよくできていて、いつも楽しみに見ていました。実はファンレターを出したこともあります。本人は「おぼえてないなあ」って言ってたけど。初めてイラストの仕事を依頼したとき、仕事場に伺ったら「おなかすいてませんか。肉まん食べませんか」というので、変わってるなあ、と思ったの。でも、いいですよ、と言って待ってたら、フジモトさんが出てきたのは、皮まで全部、自分で手作りした肉まんだった。ビックリした(笑)。だって井村屋のとか思うじゃない。肉まんを手作りする人を初めて見た!と思ったなあ。それが15年前だから、考えてみたら、10年間しか一緒に仕事、できなかったんだね。(名久井)

